

「単元学習計画表」の使い方

佐賀県吉野ヶ里町立東脊振中学校 教諭 吉田 喜美子

みなさん、こんにちは。先生方は、担当されている生徒さんたちと、各単元の中で何を学習するのかを共有されますか？「学習計画を共有したいけど、どうしたらいいのかな」「各授業のまとめ・振り返りの記述に取り組みたいけど…」と悩んでおられる先生方のヒントになればと思い、令和 7 年度から使用が始まる Sunshine の「単元学習計画表」を準備しました。

この「単元学習計画表」は、学習活動をフルに盛り込んで作成しています。また、後述する①、②の語尾は「～する。」で統一し、④で初めて「～できるようになりました。」と生徒自身の言葉で記述するようにしています。

「こんなにたくさん取り組めない」「自分だったら、もっと違う活動を！」「文言も変えたい」などという声もあると思います。もちろんです。ご使用の際は、必ず生徒さんたちの実態に合わせて、先生方一人ひとりの授業にカスタマイズして使用してください。

この「単元学習計画表」は、大きく分けて4つのパーツに分かれています。それぞれ紹介します。

PROGRAM 2 (単元学習計画表) Good Night, Sleep Tight.

3年 class no name

GOALS

- 自分が経験したことや続けていることを、伝え合います。
- 睡眠が生活に与える影響について理解を深め、説明したりします。
- みらい中学校の生徒たちの悩みに対して、自分のメモを作り、紹介し合います。

Scenesでの学習

- 「～をちょうど／すでに…したところ」を表現し、伝え合う。
(have + 動詞の過去分詞 + for/since～: 現在完了形【継続用法】を使った表現)
- 「～以来／～の間…だ」を使って表現。
(have + 動詞の過去分詞 + for/since～: 現在完了形【継続用法】を使った表現)
- 「～し続けている」を使って表現し伝え合う。(have been + ing: 現在完了進行形を使った表現)

	学習する内容や活動等	活動の達成度
帯Talk	自分が行ったことのある場所と、そこでしたことについて話そう。	5・4・3・2・1
	あなたが昨日したことについて話そう。	5・4・3・2・1
	これまで自分が続けていることについて話そう。	5・4・3・2・1
ターゲット文	Scenes 1 知識・技能 現在完了形、表現法【法】を含む文を理解したり、表現したりする。	5・4・3・2・1
	Scenes 2 知識・技能 現在完了形、表現法【法】を含む文を理解したり、表現したりする。	5・4・3・2・1
	Scenes 3 知識・技能 現在完了形、表現法【法】を含む文を理解したり、表現したりする。	5・4・3・2・1
本文	Tuning in Part 1~3 知識・技能 教科書本文を読み、内容を理解する。	5・4・3・2・1
	Review & Retell 思考・判断・表現等 睡眠が生活に与える影響についてセリフを考えたり、説明したりする。	5・4・3・2・1
まとめ	Action 思考・判断・表現等 みらい中学校の生徒たちの悩みに対する解決策のメモを作り、発表する。	5・4・3・2・1
整理	早わかり 知識・技能 文の決まりに関する知識を整理する。	5・4・3・2・1

単元を振り返って私は・・・を頑張り、できるようになりました！

わたしは、PROGRAM 2 で

学習をする過程で努力したことは

PROGRAM 3 でできるようになりたいこと

月 日

今日学んだ英文

月 日

今日学んだ英文

月 日

今日学んだ英文

月 日

今日学んだ英文

月 日

今日学んだ英文

月 日

今日学んだ英文

① 各単元の「GOALS」と「Scenes」で学習する言語事項

各単元の扉ページに書かれている GOALS や、Scenes で学ぶ文法事項を「早わかり」の内容と関連付けて記載しています。

② 学習する内容や活動等

生徒たちが授業中に、どのような学習活動に取り組むのかを記載しています。「活動の達成度」を5段階で自己評価します。自己評価のタイミングは、活動ごとでもよいですし、各単元を締めくくる際(下記④に取り組む前)でもかまいません。

③ 各授業後に記入する「まとめ・振り返り」

生徒たちは、その日の学習内容を自分の言葉でまとめながら振り返って、25字×3行＝75字程度で記入します(中島博司著:『R80 自分の考えをパッと 80 字で論理的に書けるようになるメソッド』(飛鳥新書)を参考にしました)。「今日学んだ英文」には、1文以上記入します。

④ 「単元を振り返って私は・・・を頑張り、できるようになりました！」

単元末に記入します。学習活動を通して、何をできるようになったのか、努力したことは何なのかを自認し、次の単元の学習で頑張りたいこと(自分が目指したい目標)を書きます。

次に、どのような場面で、この「単元学習計画表」を使うのかをご紹介します。

- 1 単元の導入場で「単元学習計画表」を配布します。生徒たちとともに①と②をざっとながめ、学習のめあてや学習活動などの流れをつかみます。
- 2 先生方は、各授業末に「今日の学習のまとめ」を行っておられると思います。クラス全体でキーワードを模索したり、学習ペアでバズトークを行ったりすることもあるでしょう。それを各自が言語化し、学習の振り返りとともに③に記述します。記述は授業中に行っても、家庭で授業の復習として記述してもかまいません。
- 3 次時の授業の Review(前時に学んだことの復習)の際に、③に記述した内容と「今日学んだ英文」を、2～3人の生徒に発表してもらいます。それぞれの生徒たちが述べる内容には個性があり、多角的な表現方法によって効率的に復習することができます(それぞれの「まとめ・振り返り」の発表の際に、ほんの一言ずつコメントを加えていくと、さらに前時を思い出しや

すくなります)。

※筆者は、発表後のタイミングで用紙を回収し、その日のうちに返却することを心がけています。

4 ②の学習活動が終了したら、④を記入し、回収します(②の「活動の達成度」の5段階評価については、前述のとおりです)。

続いて、音読についてご紹介します。

2, 3年生の Reading については、「単元学習計画表」の②に、音読を自己評価する項目があります。すでにこれまで積み重ねてこられたご実践の中で、評価項目や方法及び基準について確立されている先生が多いと思います。ここでは、生徒たちに目指してほしい「音読」について、筆者なりの視点を述べたいと思います。

音読は以下の3点を評価しています。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 内容を理解して音読している。(意味のかたまりごとに音読できているか等)② 発音やアクセントが正しい。③ リズムやイントネーションが自然である。 |
|---|

評価は、以下の5段階の基準で行っています。

- | |
|---|
| <p>評価5:発音・アクセント・リズム・イントネーションを含め、内容が正しく伝わる、臨場感のある音読をしている。</p> <p>評価4:発音・アクセント・リズム・イントネーションにおいてやや努力が必要だが、内容がほぼ正しく伝わる音読をしている。</p> <p>評価3:発音・アクセント・リズム・イントネーションにおいて努力が必要だが、内容がだいたい伝わる音読をしている。</p> <p>評価2:発音・アクセント・リズム・イントネーションにおいて努力が必要で、内容を伝えることがあまりできない。</p> <p>評価1:発音・アクセント・リズム・イントネーションにおいて大いに努力が必要で、内容を伝えることがまったくできない。</p> |
|---|

上記は主観的な評価基準ではありますが、実践を重ねるうちに、先生方の内面に評価基準が

確立されていかれることと思います。音読の評価項目や方法、評価基準を、生徒たちとぜひ共有し、音読活動に取り組まれてください。

筆者は、2021年からこのスタイルの「単元学習計画表」を使用しています。慣れるまでは、生徒たちが振り返った内容を自分の言葉で言語化し、記述することがなかなかできないこともありました。また、日々の点検は時間との闘いでもありました。しかし、生徒たちの記述内容から、自分の授業運営を反省したり、次の一手を打つことができたりと、だんだんとメリットが増えていきました。また、生徒たちからも「自分の言葉で書けば、よく覚える」「あとで読み返すと、何を勉強したかをすぐに思い出せる」という声が聞こえるようになってきました。今では、それぞれの生徒とのよいコミュニケーションの場にもなっています。

筆者は、「プリントを忘れてきた生徒は自主的に申し出る」方式をとっています。忘れてきた、というだけで気が重いわけですから、生徒が申し出た際は、その生徒に笑顔で「次回待っているよ」と一言だけ伝えています。キーワードは「笑顔」です！「学習単元計画表」を書けば、きっといいことがあるよ、というスタンスでいきましょう。

最後にもう一つだけ。

筆者は、④「単元を振り返って私は…を頑張り、できるようになりました！」の記述後、「単元学習計画表」を回収し、そのまま年度末まで保管しています。年度末が近づくと、一人ひとりの「単元学習計画表」を綴り合わせ、各学年の最後の授業で手渡しています。まるで卒業証書のようです。生徒たちは、「最初の頃は、こんなこと勉強していたっけ」「懐かしいなあ」など、一年間の学習を自分なりに振り返りながら感想を述べてくれました。

生徒自身の言葉で、できるようになったことを記述すること、そしてそれを積み重ねていくこと。私たちは、その小さな一歩を、共に喜び、励まして、背中を押し続けること。それがやがて生徒一人ひとりの大きな自信と力につながり、世界への扉を開くためのエネルギーに変換されることを願ってやみません。